

●6月の上映作品について

「マチルド、翼を広げ」

6月8〜9日@喫茶メフィストフェレス2Fシアター

バックナンバーはHPまで

6月1本目の上映作品は、精神の状態で不安定な母親と、彼女に振り回されながらも、母を深く愛し、支える9歳の少女マチルドの物語。上映直前に物語のことをあれこれ語るのもあれなので、ここではとつても深い余韻をもたらししてくれる主題歌について記しておきます。曲のタイトルは「オー！マイ・ママ」カリフォルニア州ネバダシティのシンガーソングライター、アレラ・ダイアンさんの作品です。たぶん、皆さん気に入ってもらえると思いますし、映画のテーマと重なるその歌詞を反芻したい方もいらっしゃると思いますので、全訳を記しておきます。終演後も映画の余韻とともに、ぜひ振り返っていただけると幸いです。

●「オー！マイ・ママ」byアレラ・ダイアン（全訳）

私のママはくれた 羽のようにやわらかな息
私のママは言った 声を出して“私の小鳥”
ママは言った“歌って、歌ってメロディーを”
そしてママは歌った メロディーを
私のママがくれた自由な足で 私は踊る
つま先でコツコツときしむ床に 音を立てる
ママは私の手を取り かたく握った
ママたちはくれる その井戸の水を
ママたちは子どもを送り出す 私たちが歩く泥道に
私のママがくれた 羽のようなやわらかい息
あなたのママもくれたはず 柔らかかなその息を
空がこの羽をすべて落とし 鳥が朝歌うとき
私はママになる 私は娘を持つ
私はママになり 娘を持つ
そして娘にあげる メロディーを

メロディーをあげる メロディーをあげる
娘はきつと私の小鳥になる そして飛んでいく
彼女は飛んでいく...



アレラ・ダイアン



この映画は、お母さん役でもある監督・ノエミ・ルヴォウスキーさん（左）が実母に捧げた作品です。

「沖繩ス・パイ戦史」 6月22日@自由民権記念館ホール

ゴトゴトシネマ前田が沖縄に興味を持ったのは、学生の頃はまった沖縄民謡に端を発します。最初に聞いた喜納昌吉の「ハイサイおじさん」が、沖縄戦で精神に異常をきたして実子の首を切り落として鍋で煮るといふ事件を起こした妻を持つ、孤独なおじさんとの触れ合いを歌った歌であることを知った時から、その後、竹中労さんの数々のルポルターージュを読み、嘉手苅林昌（かてがかりんしょう）さん他多くの「唄さー」の歌詞に歌いこまれた、戦中、戦後の沖縄の悲劇、悲哀を聴きながら、時代に翻弄され続ける琉球弧の島々に想いを寄せてきました。古い記憶ですが、卒論も、当時卒業旅行という名称もなかったように思いますが、卒業後真っ先に放浪したのも沖縄でした。現在まで



嘉手苅林昌さんの名相方・大城美佐子さんは、今だ現役で高知にも毎年こられています。

も脈々と続く悲劇を
暴き、将来への警鐘
を鳴らし続ける三上
智恵監督、大矢英代
監督の秀逸なドキュ
メンタリー作品をぜ
ひ、ご覧ください。

gotogoto cinema

上映詳細はチラシ、HP、FBにて

●ゴトシネマヒストリー vol.11 夏は野外上映で星空と一体化！

ヒストリー vol.5で触れた西岡恭一さんがやってた昔の土佐山麓尾公民館での夏の野外上映。これをやってみたくと常々思ってたゴトゴトシネマ前田、さっそく夏の到来とともに自宅の庭を使って野外上映を試みました。演目は、やっぱり夏休みで子ども達とワイワイ見たいぜ！ ということで夏の野外上映の王様(たよね)「E.T.」！ご近所さんご家族や、移住してきたご家族さんたちでワイワイ盛り上がったのは憶えてるのですが、盛り上がりすぎて飲みすぎたのが、あまり記憶がなく、今写真を見ていろいろ思い出しました。いや、これ良かったね、土佐山の満点の星空とスクリーンの中の世界がつながってるようで、心が開放され切った夜になりました。しかしながら、暑いからと薄着で来た面々は、フト(刺されると寝られないぐらい痒いのです)の襲撃を受けることに…。いろんな意味で思いに残る上映会になりました…。

さらに、盛り上がったので引き続いて9月も野外上映会を決行！大好きなライアン&テイタム・オニール親子の「ペーパー・ムーン」を楽しみました。こういう昔の作品も、たまにはやってみいなと思っております。野外上映もまたやりたいな。(つづく)ゴトゴトブログより転載



星空とスクリーンが一体化！



「ペーパー・ムーン」大好きな映画です。